



弁護士にとっての「YouTube」活用の可能性

会員 関田 真也 (71期)

通信速度の高速化に伴い、人々の情報収集ツールがテキストから動画に移りつつあります。私は、弁護士登録以前に経済誌で記者・編集者をしており、テキストのコンテンツを作り出すことに腐心する日々を送ってきましたが、最近の状況を見ると、人々の可処分時間がより情報濃度の高い動画に費やされていくことは確実と感じています。一方、法曹の世界においては、動画(YouTube)を使いこなして情報発信している人はまだ多くありません。

皆さんの中には、「YouTubeなんて、喜んで見ているのは子どもだけ」というイメージをお持ちの方も多いのではないのでしょうか(私も以前はそう思っていました)。しかし、最近ではエンタメだけでなく、ビジネスで役に立つ大人を対象としたコンテンツが明らかに増えています。

例えば、士業では大河内薫先生の「税理士大河内薫の税金チャンネル」がとても勉強になります。個人事業主なら誰もが気になる経費性のことから、「持ち家か、賃貸か?」という税務とは少し切り口を変えたテーマまで、専門家の視点から分かりやすく語られています。また、他業種では、プログラミングスクール『TECH CAMP』を運営する株式会社div 代表取締役の真子



就有さんのチャンネル、「マコなり社長」の完成度が高いと感じます。こちらは若手ビジネスパーソン向けに「明日から使える、仕事に役立つアクションプラン」を紹介しているのですが、IPOを目指し組織を作ってきた起業家としての言葉に説得力があります。

動画を見続けていると、2つのチャンネルに共通する特徴があることに気づきました。1つ目は、シンプルかつ構造的に話しつつ、適宜テロップや図表をつけていること。2つ目は、尺は長くても15分程度に抑える「情報凝縮」スタイルであることです(実際に収録している時間は3~4倍程度と思われそうですが、不要な間を徹底的に編集でカットしています)。セミナー等をそのまま無編集で流すのとは異なり、計算し尽くされた構成と編集によって、視聴者の意識を引き続けることができるため、「短時間で1冊の本を読了したような体験」を提供しているのです。

動物は「動くものを目で追いかける」本能があり、私たち人間もその例外ではありません。表情や声、身振りに加え、図表やテロップを活かせる動画なら、テキスト以上の没入感を生み出すことができます。実際、ある現役のメディア関係者の方からは、「テキストだけでも記事をきちんと読んでくれる人は、世の中の10%程度という感覚」という声も聞きました。法律のコンテンツは専門性の高さゆえ、このハードルはさらに上がることは明らかで、だからこそ動画コンテンツには大きな可能性があると思います。

かつては「弁護士がネットに文章を上げるなんて……」と眉を顰められた時代もあったはずですが、今ではブログ等で発信している方は数え切れないほどいらっしゃいます。同じように、誰もが動画で法律について語ることが当たり前になる日が来ることも、そう遠くないのかもしれないかもしれません。